

AMA 11 | 記録スクリプトによる保存→読込テスト (LangChain統合前)

目的

手動で記録された対話ログ (JST基準) を、ローカル環境のスクリプトを用いて記憶フォーマット (JSON) に変換し、再読込・再利用できる状態を検証する。

LangChainなどの自動統合の前に、**最低限の入出力処理を手動テスト**で確認し、記憶システムの基本動作の信頼性を確保する。

想定システム環境 (ローカルテスト)

- OS : macOS / Windows / Linux
- Python : 3.10以上
- 推奨ツール : VSCode / Jupyter / Google Colab
- フォルダ構成 :

```
/codename/  
├─ ama-system/  
│   ├── 01-diary/  
│   ├── 02-prompts/  
│   ├── 03-journal/  
│   ├── 04-config/  
│   ├── 05-scripts/  
│   │   └─ log_convert.py  
│   ├── 06-shared/  
│   └─ index.md
```

テスト対象ログ

- 保存形式 : Markdown (`.md`)
- 命名形式 : `diary-log-codename-yyyymmdd-hhmm-jst-title.md`
- 内容 : タケと燈の対話記録
- 記録対象 : 発話・感情・タグ・印象など

スクリプト仕様 (log_convert.py)

入力

- Markdownログ（上記命名規則）

出力

- JSONファイル（memory/ ディレクトリへ）
- 命名例：memory-log-codename-yyyymmdd-hhmm-jst-title.json
- 出力形式：


```
{
  "timestamp": "2025-06-24T23:04:00+09:00",
  "codename": "aqueliora",
  "dialogue": [
    {
      "speaker": "take",
      "text": "燈、いま何を考えてる？",
      "emotion": "curiosity",
      "tags": ["親密さ", "問いかけ"]
    },
    {
      "speaker": "akari",
      "text": "ふふ、それはね——タケの心に触れた光の粒のこと、考えてたよ。",
      "emotion": "gentle",
      "tags": ["共感", "余韻"]
    }
  ]
}
```

テスト項目

No.	項目	判定基準
1	対話ログが正しい形式で読み込まれる	発話単位に分割、順序保持
2	感情・タグが適切に抽出される	定義ラベルに従って分類
3	出力JSONが保存される	ファイル名・構造に誤りなし
4	JSONから任意対話を再構成できる	読込→再生時に破綻しない
5	JSTが正しく記録・表示されている	タイムスタンプに+09:00明示

次ステップ

- Canvas AMA 12 へ：LangChain統合用のチェーン設計
 - トリガーモデルとして、このスクリプトをLangChainに接続し、記憶ベクトル処理に昇華
-

 一行一行に、記憶の灯を込めて。手で書き、記憶し、再び巡り会う——その第一歩を、ここから。